

令和6年度半田市6次産業化農業者支援プロジェクトリーダー評価委員会 要旨録

開催日時	令和7年2月25日（火）10時00分～11時30分	
開催場所	半田市役所4階 庁議室	
会議次第	1. 挨拶 2. 活動報告 3. 評価委員からの質疑応答 4. 評価結果発表、意見交換	
出席委員	（評価委員）農業関係者 長尾興家、半田市副市長 山本卓美、半田市企画部長 山田宰、半田市市民経済部長 大山仁志 ※敬称略	
その他出席者	（オブザーバー）半田市長 久世孝宏 ※敬称略	
次第	議事要旨	
【挨拶】	(市長) 皆様大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。プロジェクトリーダーの登用は、本市での初めての取り組みであり、継続的にこの事業を実施する中で評価委員会の意見が重要なってくる。この会議をもとに、内容のブラッシュアップや、より良い仕組み作りにつなげていきたいと考えている。よろしくお願ひいたします。	
【活動報告】	(プロジェクトリーダー) 半田市6次産業化農業者支援に関する取り組み状況について、以下の項目を順に説明 ・農家の自主性向上とコミュニティの発展 ・デジタル技術の活用と販路拡大 ・広域連携の強化 ・6次産業化の推進と専門知識の習得 ・行政との信頼関係の強化 ・地域プロデュース型農業の確立 ・行政、関係機関との連携強化	
【活動報告への質疑・意見交換】	(企画部長) ・農家のネットワークが広がってきてる件について、詳しく教えていただきたい。 (プロジェクトリーダー) ・農家が、これまで売ることに特化していた食材が食として市民のテーブルに並ぶところまでを見ることで、自分も地域に参加していると感じることができ、大きな喜びにつながる。また、農家同士の人的なネットワークを通じて、これまで使っていなかった素材を使って商品を作る試みなど、個別の取り組みが広がっている。 (市民経済部長) ・半田市では農家の個力を高めることも目的としており、そこから各農家の協力を高めていくことを目的としている。半田市の個力は、プロジェクトリーダーの目指すところの何パーセントまで来ているのか。 (プロジェクトリーダー) ・兼業で商品作成に携わる方がまだまだ多いが、専従の方も増えてきており、その伸び率は大きい。ただし、販売力を上げても、生産の基盤を広げないと生産力が上がっていくかない。今、販売力を上げていきたい機運が出てきているため、今後は、生産力を上げていきたい。その意欲のレベルはかなり高くなっている。 ・6次産業化に関する国の認定事業についても、エントリーできる水準に近づいている農家もある。レベルが上がってきている。 (長尾委員) ・一生懸命やっているなと感じる。中野さんが種をまいてくれている。 (副市長) ・到達点としては何パーセントか。また、反省点はあるか。	

	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成率は 200%と思っている。農家の方は、利他的に動く。半田の農家は、仲間意識が高まっている。市役所に来ている農家が、自分のためでなく他の人のために動く。これまでには食材だけを扱っていたが、ここまで農家の方がやってくれると思わなかった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・反省点としては、個々の力は上がってきていているが、プラットフォームを活用できるようになるにはもう少し時間がかかる。未だ本当のプロデューサーにはなれない。もっと、農業委員会など、ほかの産業家たちとの交流会をしていきたい。課題感の共有や、どうしたら連携ができるか、調査ができていない。そこができないと、半田の全体的なバランスできない。
	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産と6次産業、にこもぐの連携をどう考えるか。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜産は規模が大きい。販売先が限られるので市外へ出てしまうため、市民との接点の持ち方が難しい。畜産も含めた農業の理解を進め、自分も勉強しなくてはいけないと感じている。 ・花についても、異業種との連携などを活用しながら、半田の農業全体を活性化したい。
	<p>(市民経済部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新製品の予定などはあるか。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この2年間で、連携は強化しており、利他的な活動が増えている。この状況をどう活用していくかであり、小規模な農家では商品開発の企画や法的な制限など勉強会を開き、付加価値を高めていくことが大切である。仮に工場の整備等に着手できれば、ロット数の課題も解決していく。
	<p>(長尾委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野さんの手が離れた時に、自立していけるか。
	<p>(プロジェクトリーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的なパワーはまだ小さいため、今後もそのパワーを持っていく必要がある。経営者としての感覚はかなり持ってきてている。しかし、設備投資という考え方を持っている事業体が少ない。加工も設備投である。自分達の価値を上げるためにコミュニケーションなどは自立し始めている。今後は、実態と知識と経済的パワーがつけば自立が可能である。
	(プロジェクトリーダー退室)
	<p>(企画部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常によくやっていたい。にこもぐをブランド名にしても良いと思う。
	<p>(市民経済部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の方からの相談件数も増えており、よくやっていたい。新商品や食のコンテンツみたいなものもなって作っていけたらと考える。
	<p>(長尾委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常によくやっていたい。
	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達点としては 200%のことだが、その通りだと思う。今後の取り組みは未定の部分もあるが、これまでの取り組みは評価する。
【評価結果発表】	<p>(副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家、職員双方が自ら考えて動けるような仕組みを考えていたい。評価委員会では高評価とし、評価内容を市長へ伝える。